

図書館たより

号数 第45号
発行日 昭和55年1月20日
編集 島根県立図書館
発行 松江市内中原町52
TEL (0852) 22-5725
印刷 渡部印刷

島後教育委員会管内の読書施設 とその活動

ご承知のとおり、隠岐島後教育委員会は、西郷町、布施村、五箇村、都万村の四ヶ町村からなる教育委員会です。この管内の読書施設といつても……非常に貧弱ですがその一端を紹介します。

まず、西郷町ですが、今年度より待望の図書センターの設置が実現し、約4,800冊の図書をもって町民の読書活動の拠点となりました。昨年度までは、

県の自動車文庫に加え、

1,000冊の特別貸与を受けていました。その時の利用冊数が約

1,800冊でしたから、今後は大いに期待のできるところです。

次に都万村ですが、昨年までは自動車

文庫に頼っていましたが、今年度から500冊の特別貸与を受け、広く住民に利用してもらうために、島後で初めて公民館独自の巡回を行なっています。

他の五箇村、布施村では、完全に県の自動車文庫に頼っているのが現状です。

ところが、こうした恵まれない施設にもかかわらず、各公民館ともそれぞれの持ち味を生かし、読書活動の普及に積極的に取り組んでいます。例えば親子読書についてみると、教育委員会、各公民館、保健所の緊密な連携のもとに、現在5グループが活動

しています。中でも、布施村、五箇村では、親子読書から発展して影絵にも取り組むようになり、母と子の楽しい活動が展開されています。加えて、先般西郷町公民館で親子読書研修会が行なわれ、約70名の熱心なお母さんたちが参加されました。これを機に、ますますの発展が望れます。

また、西郷町公民館では、母と子の読書活動として読書は勿論、映画会、タコ作り等々いろいろな楽しいプログラムを組み、グループ育成に努めています。

こうした種々の取り組みのバックには、県立図書館の多大な援助があり、それを生かす各公民館の職

員の「汗」の努力があります。一日も早く一人歩きのできる読書活動をと願ってはいるものの、そこは、「お金」と「人」と「施設」です。急には実現するとは考えられませんが、こうした小さな活動の一つ

一つが積み重ねられて、いつかは花開く時が来るものと信じます。

現在、西郷町では、町の総合振興計画に基づいて58年度を目標に町立図書館の建設が打ち出され、完成の暁には15,200冊の図書を整備した文化の殿堂が実現する予定です。夢にまで見た施設の実現が、日一日とせまって来ています。……地道な活動の彼方から……。

文責 島後教育委員会 谷口桂介

こどもの本 (3)

—読みきかせに適した本・のりものえほん—

ちいさいしょうぼうじどうしゃ

ロイス・レンスキー 文・え

わたなべしげお訳 福音館書店 ¥450

「スマーリーさんと、ちいさいしょうぼうじどうしゃは、いつもしょうぼうしょにたいきしています」という書き出しで始まり、スマーリーさんの活躍を中心にして消防士と消防自動車の働きを認識させる知識絵本。

単純で丸っこい獨得のスタイルの絵には、素朴なユーモアがあり、色彩も白黒に赤一色が効果的に使われていて、子どもの心理をたくみにとらえている。

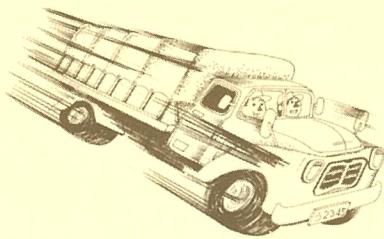
ほかに「ちいさいきかんしゃ」「ちいさいじどうしゃ」の2巻がある。

とらっく とらっく とらっく

渡辺茂男 作・山本忠敬 え

福音館書店 ¥380

一台のトラックが港の倉庫から荷物をつんで遠くの大きな町まで運んでいく。その途中、高速道路では乗用車やバス、道路工事現場にはダンプカーやショベルカー、ローラー車、ミキサー車と出合ったり、タンクローリーを追い越そうとしてスピードいはんをおこしたり、長い旅の途中のさまざまなできごとをおりませながらやっと目的地へ——。読者の子どもも長い道程と一緒に走り続けたような満足感を覚えるであろう。絵は正確で力強く、横長の形をよく生かしている。出版以来十数年、好評の乗り物絵本



ちいさなふるいじどうしゃ マリー・ホール・エット 作

たなべいすず やく 富山房 ¥780

丘の上で止まっていたちいさなふるいじどうしゃは、運転手のいない間に丘をかけおり全速力で走りだす。途中、道路で遊んでいたかえるやうさぎ、あひる、おしまいには牛やおばさんまではねとばしていく。「あ、おねがいだよ、じどうしゃくん。すぐにどくからまってよ!」「いやだ!そんなことしたくない。だからまってなんかいないよ!」のくりかえしのリズムがおもしろさをさそう。遂にふみきりで機関車にはねとばされ空中分解。その部分品を動物たちが分け合って、それぞれに生活に役立てるという発想も奇抜でおもしろい。おとなはすぐ因果応報的なものにしがちだが、こどもはこのスリルとくりかえしのリズムを楽しむ。見開きに対象的にある画面もエット特有の白黒で柔軟性があり、躍動するたのしさが感じられる。

きかんしゃやえもん

阿川弘之 文・岡部冬彦 絵

岩崎書店 ¥320

いなか町の小さな機関庫に、やえもんという名の機関車がいた。やえもんは年をとって、働くのがきつい。ある日、電気機関車に「石炭くいの貧乏汽車やーい」と笑われ怒り狂う。やえもんの吐いた火の粉で稻むらが火事になり、百姓たちに「たたきのめせ」と追われる。鉄くずにされる寸前に、交通博物館員に助けられ楽しい余生を送ることになる。

擬音を生かしたリズミカルな文は、労働と人生をやえもんの物語にユーモラスに描きこんでいる。特に蒸気の擬音をまじえたやえもんのせりふが愉快で子どもたちをよろこばせる。ペンに明るい色をつけ挿絵も子どもをひきつける。

郷土資料室の窓 島根県の行政刊行物のご案内

図書館の郷土資料室へは、郷土に関する調査のために多くの利用者が訪れます。その中で、郷土新聞となると近年めぐらしく利用される資料が行政諸官庁から発行される行政刊行物です。これは行政担当部局が、島根県の各分野についての現状と実態をまとめて定期的に刊行するものです。これらの資料は過去の情況について調べることができるのはもちろんですが、なにより、各分野の現況を知るうえに最新の情報資料といえます。関係諸部局から数多く出されますが、ここに当館郷土資料室で収集しているもののうち、主なものを挙げてみました。この他にも各種行政資料を収集しています。

行政一般（県議会・財政・地方・統計）

『島根県議会会議録』	島根県議会事務局	季刊	『島根県鉱工業生産指数』	統計課	月刊
『議会資料』	〃	季刊	『工業統計調査結果報告書』	統計課	年刊
『島根県歳入歳出決算書』	財政課	年刊	『公共用水域水質測定結果報告書』	島根県	年刊
『自治研島根』	島根地方自治研究センター	月刊	『S H I M A N E 貿易情報』	松江貿易情報センター	
『市町村経営』	地方課	年刊			
『島根県市町村財政概況』	〃	年刊	『島根県中小企業の経営指標』	商工労働部	年刊
『フォトしまね』	島根県広報協会	季刊	『島根県労働組合名簿』	労政訓練課	年刊
『島根県統計書』	統計課	年刊	『島根地労委年報』	島根県地方労働委員会	年刊
『島根の統計』	島根県統計協会	月刊	『毎月勤労統計調査地方調査報告』	統計課	月刊
『統計速報』	統計課	旬報	『島根の労働』	労政訓練課	月刊
『島根県推計人口』	〃	月刊	『県民所得推計報告書』	統計課	月刊
『観光動態調査結果表』	観光運輸課	年刊			
『選挙の記録』	島根県選挙管理委員会	不定期			
農林水産業関係					
『農業センサス農家調査結果報告書』	統計課	5年毎	『島根県消費者センターニュース』		隔月
『島根県農家意識調査結果報告書』	企画部	不定期	『消費者物価指数』	統計課	月刊
『島根県農林水産統計年報』	島根統計情報事務所	年刊	『消費者動向調査』	〃	2ヶ月毎
『島根県農業気象年報』	松江地方気象台・島根県	年刊	『物価情報』	県民生活課	月刊
『島根県農業気象月報』	松江地方気象台・島根県	月刊	『島根の公害と環境保全—その現状と対策—』	環境保健部	年刊
『島根県農業気象旬報』	松江地方気象台・島根県	旬報	『島根の国保』	島根県国民健康保険団体連合会	月刊
『島根県農業協同組合概況』	農林水産部	年刊	『国民年金のあゆみ』	国民年金課	年刊
『広報家畜衛生』	松江家畜保健衛生所	季刊	『社会保険事業年報』	保険課	年刊
『島根の土地改良』	島根県土地改良事業団体連合会	月刊	『島根県衛生統計書』	環境保健部	年刊
『島根の畜産』	島根県畜産会	月刊	『県民健康調査』	〃	不定期
『島根の林業』	林政課	隔月	『国民健康保険事業状況』	社会福祉部	年刊
『島根県林業経営動向調査結果報告書』	統計課	不定期	『雇用保険業務概況』	雇用保険課	年刊
『漁業センサス海面漁業基本調査・内水面漁業調査結果報告書』	統計課	5年刊	『島根県地域防災計画』	島根県防災会議	年刊
商業・工業・経済・労働関係					
『商業統計調査結果報告書』	統計課	年刊	『消防年報』	総務部	年刊
『事業所名鑑』	統計課	不定期	『島根県警察年鑑』	島根県警察本部	年刊
教育関係					
『教育広報』			『教育広報』	教育庁総務部	旬刊
『島根県の教育統計』			『島根県の教育統計』	島根県教育委員会	年刊
『学校基本調査・学校保健統計調査結果報告書』	教育庁		『学校基本調査・学校保健統計調査結果報告書』	教育庁	年刊
『島根の教育』			『島根の教育』	島根県教育委員会	年刊
『学校基本調査の結果速報』	統計課・教育庁総務部		『学校基本調査の結果速報』	統計課・教育庁総務部	年刊
『季刊文化財』			『季刊文化財』	島根県文化財愛護協会	季刊

人間形成に欠くことのできない読書は、幼少期に習慣づけることが、もっとも重要であると言われています。

そこで当館では、去る11月松江、木次町および浜田市、仁摩町において『親子読書』をテーマに、講師として日本親子読書センター代表斎藤尚吾、日本子どもの本研究会事務局長代田昇の両氏を招き、講演会を催しました。『親子のふれあい』が特に強調される昨今、誠に時宜を得た内容と、盛会のうちに終えることができました。

親子読書という素晴らしい読書活動に、家庭で、図書館で、学校で、それぞれの立場で積極的にとりくんでいただきため、講演の要旨を紹介します。

— 肌身で暖めた一冊の本を —

斎藤 尚吾 氏

20年来、氏が提唱されている「親子読書のすすめ10か条」「親子読書の手びき10か条」を中心とした母親たちの実践記録など豊富な事例をおりませて、「親子読書」の今日的意義を具体的に語られた。

特に！親と子の静かなひとときをとりもどす！ために「今こそテレビを止めて、肌身で暖めた一冊の本を、子どもへの願いを込めてゆっくり語りかけるように読んでやる。そこに人間が人間に語りかける喜びがある。親子のふれあいとわが家の文化の回復を願って静かなひとときを持つことの意義を考えねばならない」と強調された。その後、実際に氏が肌身で暖められた絵本「かにむかし」「かさじぞう」など朗読。氏の朗読は「斎藤節」と定評があるところ、はらわたにしみるような読みぶりは会場を魅了した。

「本は溢れるほど出ているが、本当の意味で本との出会いはできていない。そのためにも読書環境の整備が急務である。読書環境の3つの条件、①歩いて行ける所に子どもの本のセンターがある。②そこへ行くと魅力あるバラエティに富んだ本がある。③そこには子どもの人生と子どもの本に愛情をもっている人間がいて相談にのってくれることができる。つまり、「施設」「本」「人」の3条件を本気に考えないといけない。とりわけ「人」の条件が大切である。

子どもを生み育てる地域の母親たちの連帯と熱意によって行政面へ働きかけ、赤ちゃんから年よりまでの本を保証する公共図書館の設立を願ってやまない」と母親たちへの奮起をうながされた。

— 個性豊かな人間づくり —

代田 昇 氏

児童本作家として、また児童文学評論家として活躍中の氏は、また一方で「親子読書会のすすめ」の提唱者として全国各地を精力的にまわっておられる。

その巾広い実践体験をもとにユーモアをまじえながら語られる氏の話の根底には常に「人間にとって何が最も大切なか」「子どもにとって読書とは何か」「どんな子どもに育てなければならないか」という大きなテーマが流れていた。

現在、模範解答の通りに暗記し答えるべきとする世の中で、人と違った表現をする個性のある子を作ることが大切であり、そのためには読書が必要である。読書はただ文字を目で追うだけでなく声を出して感情豊かに表現して読めることが基本であり、音声での訓練が読書の始まりである。

ことばの訓練をするうちに次第に情緒が発達し、想像力もついてくる。核家族の多い現在、家庭では豊かなことばの訓練ができるにくい環境にあるから、親自身が個性的な接し方（読み方）を十分しなくてはならない。それが個性豊かな独創的な子どもを育てる絶対的な要因であることを強調された。氏はそれを「態」といわれた。そういう意味で氏の作品「ももたろう」の制作過程を語られたことも味わい深かった。

終始、氏特徴の個性ある話で展開され、広い意味での読書について大いに考えさせられた。

親子読書講演会開催 — その記録から —



(講演会のもよう)